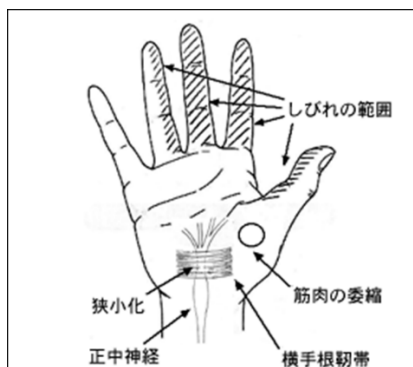


手・手関節疾患

① 手根管症候群

上肢の末梢神経障害で最も多い疾患で、手関節部（横手根靭帯）における正中神経の圧迫が原因で発症します。主に母指から中指にかけてのしびれや母指に力が入らない（つまむ力が落ちる）などの症状が生じます。これまで手の平に2～2.5cm程度の皮膚切開を加える直視下手根管開放術を行っていましたが、H28年度より内視鏡を用いた鏡視下手根管開放術も導入予定です。内視鏡のため、手の平に傷が出来ず、手首に1cm程度の傷を加えるだけで手術が行えます。両術式とも局所麻酔で行うため日帰りで手術が可能です。



靭帯による神経の圧迫

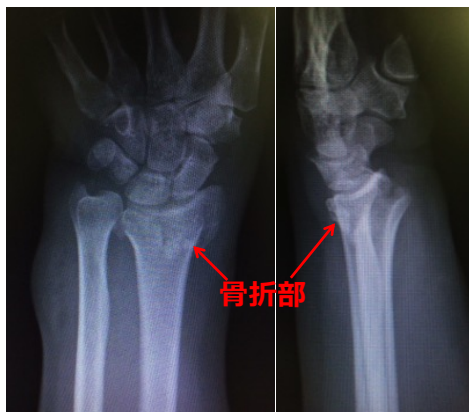


内視鏡による靭帯の切離

② 橈骨遠位端骨折

手首の骨折で、転倒、転落の際に地面に手をついて生じます。子供、青壮年、高齢者とあらゆる年代で生じる頻度の高い骨折の1つですが、特に50～70歳に骨粗鬆症に関連して発生することが多いとされています。

転位（ずれ）が小さい場合はギプス固定による治療も可能ですが、転位が小さくても早期復帰を希望する場合や、転位が大きい場合は痛みの残存、動きの制限などの機能障害を予防するために手術を行っています。近年ではプレート固定術が主流で、当院でも年間50人程度の手術を行っています。



術前レントゲン

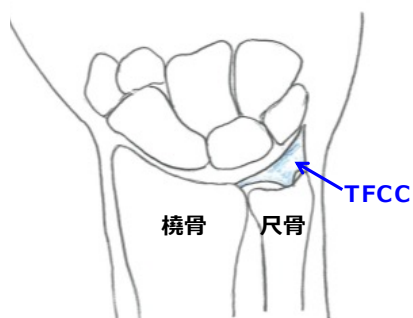


術後レントゲン（プレート固定術後）

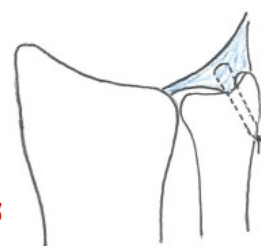
③ TFCC 損傷

TFCCとは Triangular Fibro Cartilage Complex（三角線維軟骨複合体）の略で手首の尺側（小指がわ）に存在します。転倒・転落・交通事故などでの手首の捻挫、スポーツや仕事での負担、年齢を重ねることでの変性などで損傷し痛みの原因となります。

基本的にはギプスや装具固定による保存療法を行います。痛みが続く場合には状態に応じて手術（関節鏡視下または直視下 TFCC 縫合術、尺骨短縮骨切り術など）を行うこともあります。



TFCC損傷のMRI



尺骨に穴を開けて、
損傷したTFCCを縫着